

# 再 評 価 調 書

整理番号	4
担当部局	土木部道路建設課

## 1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	一般県道 常総取手線
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	つくばみらい市古川～成瀬
(5)採択年度	2019年度(平成31年度(令和元年度))	(6)完成予定年度	2025年度(令和7年度)
(7)事業目的	・一般県道常総取手線は、主要地方道つくば野田線と主要地方道野田牛久線を接続する重要な幹線道路である。 ・常磐自動車道(仮称)つくばみらいスマートICが令和元年9月に事業化され、大型車などの交通量の増加が見込まれ、機能強化を図るため、つくばみらい市古川～成瀬までの約1.6kmの現道拡幅整備を行うものである。		
(8)事業内容	・事業延長 L=1,600m ・計画幅員 W=13.0m(2車線) ・用地買収、地盤改良、改良工事、舗装工事		

## 2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再評価(完成年度変更)	(2)当初完成予定	2023年度(令和5年度)
(3)未着工・事業が長期間要している理由	事業着手後に土地の権利関係における相続問題が発生したため、用地取得に不測の日数を要したことから、事業期間を延長する。		
(4)前回指摘事項に対する対応状況(再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	—	—	

## 3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	2023年度(令和5年度) → 2025年度(令和7年度) 2年延長 【理由】事業着手後に土地の権利関係における相続問題が発生したため、用地取得に不測の日数を要したことから、事業期間を延長する。
(2)事業内容の変更	【理由】
(3)事業費の変更	【理由】

## 4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量(m)	1,600	0	0	0.0%
事業費	工事費	1,091	294	38.4%
	用地買収補償費	109	10	59.6%
	計(百万円)	1,200	304	40.3%
(2)関連事業の進捗状況	・常磐道(仮称)つくばみらいスマートICが整備中 ・取手つくば線バイパスが2023年(R5)7月に開通 ・圏央道インターパークつくばみらい(工業団地)が整備中			
(3)今後の見通し	工 事		用 地 等	
	順次工事に着手し、早期の完成を図る。		残る用地については、令和5年度中に買収が完了した。	

## 5 評価内容

(1)事業の必要性	・(仮称)つくばみらいスマートICが整備されることにより、大型車などの交通量の増加が見込まれることから、機能強化を図る必要がある。 ・(仮称)つくばみらいスマートIC及び常総取手線を整備することにより、谷和原IC付近の国道294号混雑区間の交通転換を促し、周辺道路の混雑緩和を図る。 ・、緊急輸送道路に位置づけられており、スマートICの整備と合わせて機能強化を図る必要がある。					
社会情勢等の変化に関する指標1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標2	計画時の状況	現時点での状況	
常総取手線 24時間交通量 (つくばみらい市古川)	8,584台/日 (R1交通量 調査結果)	9,268台/日 (R3セオ)				
(2)事業の有効性	本事業の実施により下記の効果が期待でき、事業は有効である。 ・本整備区間の通過にかかる所要時間は約1分短縮が見込まれる。 ・混雑区間における交通転換が図られることで、谷和原IC周辺道路の混雑緩和に寄与することが期待される。					
効果予測に関する指標1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標2	事業なし	事業あり	
つくばみらい市古川～成瀬の通過時間(R22)	3.9分	3.0分				
効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標2	事業なし	事業あり	
将来交通量(R22) 常総取手線	8,900 台/日	10,900 台/日	将来交通量(R22) 国道294号	39,300 台/日	38,600 台/日	
(3)事業の効率性	ア)主な効果(B) ①本路線の整備により、走行時間の短縮(約1,703百万円)、走行経費の減少(約86百万円)、及び交通事故の減少(約32百万円)が図られる。(計1,821百万円) ②常磐自動車道(仮称)つくばみらいスマートICが現在整備中であり、完成後は当該路線がスマートICへのアクセス道路として、つくばみらい市内及び周辺市から連絡強化が期待される。 ③北側の工業団地の企業立地が進んでいることから、当該路線がスマートICへのアクセス性を強化し物流機能の強化が図られる。 イ)主な費用(C) ①事業費 1,196百万円 ②維持管理費 130百万円 計 1,326百万円  主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C=1.4					
(4)地元の意向	(仮称)つくばみらいスマートICのアクセス道路であるため、スマートICの事業主体であるつくばみらい市から整備要望を受けている。					
(5)コスト削減や代替案立案の可能性	土工における土量の過不足について、事業区間内および近傍で実施している他事業と工事間流用を調整する事により、コスト削減を図る。					

## 6 対応方針

(仮称)つくばみらいスマートICのアクセス道路であるため、スマートICの完成に間に合うよう、事業推進を図る。

## 7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

## 8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し、事業を進める。

